

32

2017・November

●Published by KOBE COLLEGE

神戸女学院大学

●共通英語教育研究センター長に聞く
世界に通用する英語力を養い、
魅力的な人間に
― 共感性の高い人格を育む共通英語教育 ―



ローカルな素材に普遍的な感動を求めて ― 5

― 民謡・詩歌を用いて声楽曲を作曲 ―
石黒 晶 教授

人と自然がバランスよく共生していくために ― 9

化学物質が水生生物に与える影響を検証する
株式会社日本海洋生物研究所 技術研究部 研究員 田井 梨絵 さん

●KCC/KC インターンシップ

4週間にわたる海外就業体験からの学び

異文化に触れ、実社会で育んだ積極性 ― 11

●タグラインに込めた想い

まだ知らない自分に挑む! ― 13

●英語の教職課程履修生がボランティア

小学校の出前授業で活躍 ― 15

●西宮市立北口図書館で「英語絵本の読み聞かせ」活動

子どもたちが英語に触れるきっかけ作り ― 16

●世界に羽ばたく卒業生 <チェンバロ奏者>

行動力と発信力をもち、楽器の魅力を伝える奏者に ― 17

●学内情報 Campus News

学内・中庭で絶滅危惧種「ワスレナグモ」を発見 ほか ― 18

KCインフォメーション ― 19



●共通英語教育研究センター長に聞く

世界に通用する英語力を養い、魅力的な人間に

—共感性の高い人格を育む共通英語教育—

●神戸女学院大学 共通英語教育研究センター長
川越 栄子——KAWAGOE Eiko

神戸女学院大学は、グローバル社会で活躍するための英語運用能力と国際感覚を身につけた人材の育成を目指し、2014年4月より新たな共通英語教育を始動した。主な対象は英文学科以外の学生。導入により、1年生の英語の授業時間は従来の倍にあたる週4回となり、学生は全学科共通のカリキュラムで基礎力を強化すると共に、自身の専門分野に特化した内容の英語を学びながら、さまざまな国際交流プログラムを通して世界と交流する機会を増やしている。始動から3年経った今、改めてその内容や成果について、共通英語教育研究センター長の川越教授に話を聞いた。

▼時代に即した全学的な英語教育を

—2013年に共通英語教育研究センターが開設され、14年度から共通英語教育が導入されました。その背景と目的をお聞かせください。

神戸女学院は創立以来、国際理解とそれを支える英語教育に注力し、「英語の女学院」と言われてまいりました。また、常に時代と向き合い、社会が求める教育を提供してきた伝統もあります。「現代社会のグローバル化に対応できるよう、英文学科はもちろん、他学科の学生の英語教育も強化したい。21世紀にふさわしい教養と知性、高い英語力と『愛神愛隣』の精神を身につけ、どのような立場に置かれても、他者と共感しながら社会貢献できる人材を育成したい」。共通英語教育センターは、そんな私たち教員の思いから設立されました。

各学科の特長を生かして全学的な英語教育を行うことは本学が初めてであり、その方針をはじめ、授業の内容や使用する教材まで、全てセンターが責任を持って統括しています。

▼オリジナル性の高い英語教育とは
—共通英語教育の特色を順にお聞かせください。

統一授業の実現

以前は英文学科以外の英語の授業は非常勤講師にお願いしており、内容も各先生に一任していました。現在はそのクラスの学生も同じ内容の授業が受けられるよう、それぞれの科目にコーディネーターを置き、授業内容や指導・評価方法、教材等を統一。教員に対するオリエンテーションやミーティングも定期的に行い、問題点等の洗い出しと改善を繰り返しています。

1年生の英語は必修。授業は週4回

1年生の共通英語の授業時間を従来の2倍に増やし、週4回に。そのうち2回はネイティブスピーカーの先生が担当しています。

オリジナルテキストやスマートフォンアプリの使用

神戸女学院大学のオリジナルテキスト「A Portrait of Kobe College」を作成し「Reading and Writing English」で使用しています。大学の紹介、歴史、



オリジナルテキスト「A Portrait of Kobe College」と英語に関する全てのことを書き込める「英語手帳」

英語学習を記録する「英語手帳」

英語手帳には、英語学習の全てを記録してもらいます。TOEIC等の検定試験の目標スコアや結果、英語の一行日記、課題で読んだテキスト、視聴した音楽や映画、学習時間……。とにかく英語に関すること全てを書き込む仕様になっています。英語力アップには、毎日1分でもいいから英語に触れ、学習習慣をつけることが大切。半期に2、3回提出することで、モチベーションアップにも役立っています。



Interview

◎学生インタビュー

英語が苦手な人こそ、来て欲しい



●総合文化学科4年生
富永 さん



●環境・バイオサイエンス学科4年生
長下 さん

——週4回の英語の授業、実際に受けていかがでしたか？

長下 最初の頃は宿題に追われ、自分の学科より英語の勉強ばかりしていました。富永 総合文化学科に入学したのに、これでは英文学科だと(笑)。でも、全

——入学当初から2年生の前期までの間に、長下さんは315点、富永さんは345点もTOEICのスコアがアップしました。勉強のコツはありますか？

富永 TOEICは基礎がとても大事。授業では何のためにやっているのか解らなかつたことも、試験を受けるといういうことだったのかと気づきます。

富永 女学院には英語をこつこつと学ば環境が整っています。課題は大変ですし時間も取られますが、授業は少人数制でレベル別に分けられているので、ゆったりしたペースです。先生もサポートしてくださるので、苦手な人も心配いりません。むしろ「苦手な人こそ女学院に来て！」と思います。



せんが、やはり就職に有利です。もちろん、スコアがよくても社会での即戦力にはなりません。企業が求めるのは英語力ではなく、真面目にこつこつ努力できる人。英語は努力次第で誰でも習得でき、TOEICは「努力ができる人」の証明になるのです。

共通英語教育研究センターは1・2年生を対象に設立しましたが、今後は3・4年生の教育にも力を入れたいと考えています。具体的には、TOEIC対策講座の設置や試験の無料化、ビジネス英語を学べる科目の設立等です。また、英文学科以外の留学志望者も増やしたいですね。そして、もともと英語力の高い人への間口も広げ、専門分野と共に英語力をさらに伸ばし、そのこ

とを世間にも浸透させる。そうすれば、入学志望者もさらに増えるでしょう。

最初の授業で「英語が嫌いな人、手を挙げて」というと、皆わつと手を挙げます。けれど、英語は毎日やれば必ず出来るようになります。授業について行けない場合は、教員が全力でサポートします。英語が嫌いでも神戸女学院大学に来れば大丈夫。安心して来てください。

所属する学科の
専門分野に関連したテキスト▶



入学時にTOEIC 750点相当以上の英語力があり正規留学を目指す意欲のある学生を対象に、特別な教育コース「English Honors Program」を設置しています。留学先で通用する

「外国人の友達が欲しくなった」と言い、「英語脳が出来た」と感じる学生もいました。今年はいよいよ今、英文学科以外の1年生全員が受講しており、成果を楽しみにしているところです。



英語で交流を深める「イングリッシュ・ゾーン」

決してTOEICが全てではありません。決してTOEICが全てではありません。

他者の価値観を受け入れられる人は、人を許すことができます。それはその人の魅力につながります。

所属学科の専門分野を英語で学ぶ

英文学科以外の学科では、それぞれの専門分野に特化した英語教育を行っています。Eusa(English for Specific Purposes)：特定の目的のための英語

「OSAKA ENGLISH VILLAGE」は万博公園にある体験型英語教育施設。レストランやエアライン、テレビ局、など、23のシチュエーションルームがあり、楽しみながら自分に合ったレベルのレッスンを受けられます。私も上級コースを受講したところ、ハリウッドの部屋に通され、監督に女優として舞台で芝居するよう指示されました(笑)。日常会話も体験できるので、海外旅行や留学前に行くといいですね。

TOEICや各種資格試験のスコア向上

TOEIC最高スコアは975点、一番伸び率が高かった人は570点です。施設としては、留学生やネイティブスピーカーの先生と英語で交流できる「イングリッシュ・ゾーン」や、オーディオ・ビジュアル用のソフトを自由に楽しめる「AVライブラリー」等があります。これは知らない人もいるため、さらに浸透させたいですね。

TOEICや各種資格試験のスコア向上

TOEIC最高スコアは975点、一番伸び率が高かった人は570点です。施設としては、留学生やネイティブスピーカーの先生と英語で交流できる「イングリッシュ・ゾーン」や、オーディオ・ビジュアル用のソフトを自由に楽しめる「AVライブラリー」等があります。これは知らない人もいるため、さらに浸透させたいですね。



■川越 栄子(かわごえ・えいこ)
神戸女学院大学 共通英語教育研究センター長。神戸女学院高等学部・大学・大学院に学ぶ。大阪大学・神戸大学をはじめ10の国公私立大学で英語教育を行う。ESP(特定目的の英語)教育を研究し、2012年度までは主に医療系の英語教育を専門に、約10年間科学研究費を受けて医学科の英語教育を研究し、大学入試センター問題作成にも関わる。著書に『ニュースで読む医療英語』(編著/講談社)、『Travelers' First Aid Kit』(単著/センゲージ・ラーニング)、『神戸地域学—神戸の魅力再発見』(編著/大学教育出版)、『実践的時事英語医療版—ザ・ディリー・ヨミウリを読む』(共著/大学教育出版)、『耳から学ぶ楽しいナース英語』(共著/講談社)などがある。

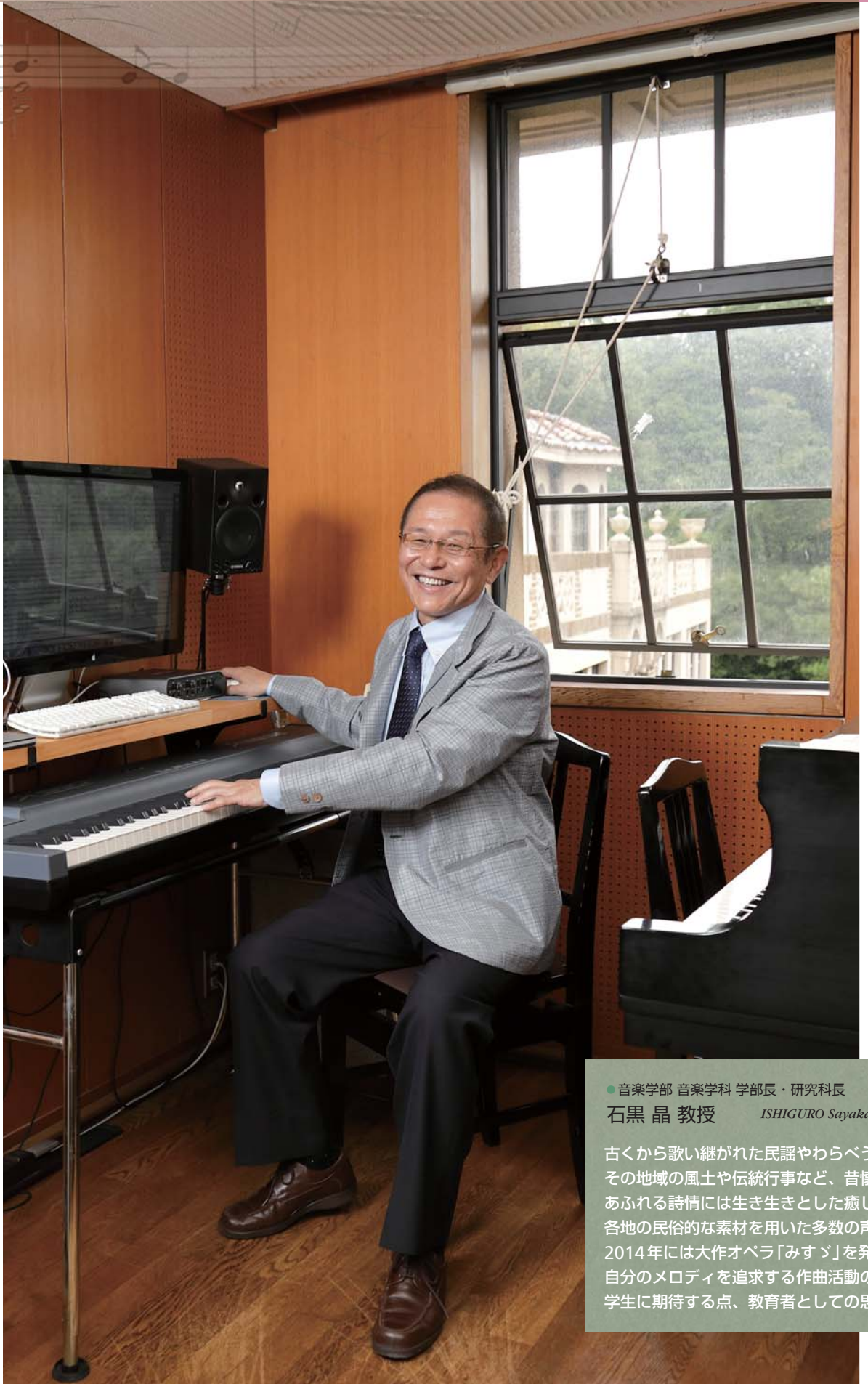
TOEIC最高スコアは975点、一番伸び率が高かった人は570点です。施設としては、留学生やネイティブスピーカーの先生と英語で交流できる「イングリッシュ・ゾーン」や、オーディオ・ビジュアル用のソフトを自由に楽しめる「AVライブラリー」等があります。これは知らない人もいるため、さらに浸透させたいですね。

ローカルな素材に 普遍的な感動を求めて

——民謡・詩歌を用いて声楽曲を作曲——

●音楽学部 音楽学科 学部長・研究科長
石黒 晶 教授——ISHIGURO Sayaka

古くから歌い継がれた民謡やわらべうたには、その地域の風土や伝統行事など、昔懐かしい情景が描かれている。あふれる詩情には生き生きとした癒しの力がある。各地の民俗的な素材を用いた多数の声楽曲を生み出し、2014年には大作オペラ「みすゞ」を発表した音楽学部の石黒晶教授。自分のメロディを追求する作曲活動のやりがい、学生に期待する点、教育者としての思いなどについて話を聞いた。



●自分のメロディを探した学生時代

幼稚園時代におばあさまから音楽や劇の指導を受けられたそうですね。

祖母は石黒つぎ子という児童文学作家です。教会の婦人伝道師で、ラジオの児童劇の原稿も執筆する多彩な人でした。放送を通じて小児まひの子どもと出会ったことがきっかけで、和歌山市に幼稚園を開設しました。

孫の私を可愛がってくれましたが、時には厳しく、ピアノのお稽古で叩かれて泣くこともあったほどです。音楽は好きでしたが、当時ピアノが楽しいとは思えませんでした。小学生になってピアノから離れて、野球や機械いじりが好きな子どもになりました。それが再び音楽に強く惹かれるようになったのは、中学生時代にブルーノ・ワルター指揮のベートーヴェン『田園交響曲』や、フルトヴェンゲラー指揮の『第九』を聴いて、その素晴らしさに衝撃を受けたからです。音楽がこれほど素晴らしいならもう音楽をやるしかない。そして、演奏もすごいけれども傑作があるから名演も生まれたのだと思い、作曲志望になりました。ピアノレッスンを再開し、作曲のレッスンを受けて東京芸術大学を受験。厳しいと評判だった松本民之助先生の門下生となり、また伊福部昭門下の松村禎三先生、池野成先生の指導も受けるようになりました。

——ご専門はどのような分野の音楽だったのでしょうか。

クラシックの「現代音楽」といわれるジャンルです。日本の音楽大学では西洋クラシック音楽が中心で、周りの学生たちはフランスに留学したりしていたけれど、私は肌が合わなかったんですね。音楽にはメロディ、リズム、ハーモニーの3つの要素があり、音には高さ、強さ、音色の3つの要素がありますが、その頃ヨーロッパ現代音楽は音色のおもしろさを競うような方向性が主流でした。これは今も変わりません。

でも私は音楽で一番大事なのは、メロディだと思うのです。メロディこそが万人の心に響く、と考えました。とはいえ、自分固有のメロディはあるのかと自問しても簡単には見つからなかったんですね。当時東京芸大には非ヨーロッパ圏音楽の資料が豊富にそろっていたので、目指す作曲の方向性を模索しようと世界中の音楽を聴いてみたところ、心の琴線に触れたのが沖縄の民謡だったのです。

そこで沖縄に取材に出掛け、芸能を観て、歌を聴き、地元の図書館を訪ねて資料を研究したりしました。悲しい歴史を秘めた地ですが、それでも沖縄の人たちは明るいし、海も空も美しい。生まれ育った和歌山にはない風土や文化に惹かれました。大学院の3年間をかけて「三つの沖縄の歌」という独唱曲を書き上げたのですが、ただ作曲するのではなく、民謡を正確・緻密に採譜し、そこに器楽伴奏を付けるという、他の学生たちと違う創作を試みたのです。

この作曲が、私にとってターニングポイントになったのは間違いありません。——その他にもいろいろな地域の民謡やわらべ歌などを素材に歌曲を作曲されていますね。

各地の芸能文化に興味があり、作品の半分以上は声楽曲が占めています。たとえば『ハッシャバイ・ソングス』は、和歌山・沖縄・滋賀・山形・北海道の子守唄を用いた曲集です。2007年にアメリカのコロラド大学で初演されたとき、結構反響があったんですね。現地でラジオ放送もされました。どこか懐かしい子守唄に、自分が学んだ西洋の音感による伴奏を付けたものですが、国は違っても音楽というものは聴き手に届くんですね。先日はブラジルサンパウロで上演されたと聞きました。この曲集は女声合唱にもアレンジし、各地でずっと歌われています。

◀各地の民謡や詩歌を素材に石黒教授が作曲を手掛けた声楽曲の数々

(上・左から)
『ハッシャバイ・ソングス』
『わらべうたのカタログ』
『沖縄わらべうた』
(下・左から)
『であるとあるで』
『アジアの唄声』

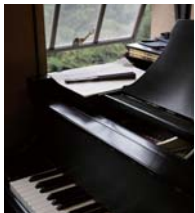
——日本人でも忘れかけている民謡によって感動を共有できるとは、貴重な体験です。

尊敬する作曲家、伊福部昭先生の言葉を思い出します。先生は「民族の特殊性を通過して普遍的な人間性に到達しなくてはならない」とおっしゃっています。フランスに行かなくても、日本にいてローカルな文化を掘り下げていくと、いつのまにかユニヴァーサルな存在になっている。逆に西洋音楽を学んで身についた音感で作曲しても、自分の音楽を模索し続ければそれは西洋と違うなものになるものであり、それに共感してくれる人も出てくるのです。

2013年には東京混声合唱団から委嘱され「愛のうた 恋のうた」を発表しました。一曲目は波照間島の伝承詩、二曲目は谷川俊太郎、三曲目は与謝野晶子、四曲目は金子光晴等の詩歌に曲を付けました。伝承詩・民謡を用いた作曲から現代詩への付曲までを一作に網羅し、自分の合唱作曲のひとつの結実のような作品になりました。近年はアイヌ神謡やアメリカ・インディアン英語伝承詩などをテキストに用いるようになってきました。

●全力で挑んだオペラが新たな目標に

——2014年にはオペラ「みすゞ」に行き着くわけですが、このきっかけは？
童謡詩人、金子みすゞの生涯とその内面を描いたオペラで、His Opera





自分がほんとうに素晴らしいと感じる音楽について
心から思っていることを話せば、
響く学生が必ずいます。



(写真・上) オペラ「みすゞ」のライブDVDと台本
(写真・右) 作曲には音楽ソフトも用いている



Companyの委嘱により作曲、新国立劇場で初演されました。私の合唱曲をよく取り上げてくれたいた指揮者が「みすゞの人生はオペラになる」と、自分で書いた台本を送ってくれたんです。オペラは初めてだったし大掛かりな作品でしたから、完成までに4年を費やしました。日本のオペラには小規模なものも多いですが、この指揮者は日本で本格的なオペラを創る難しさを熟知しておられたので、少し作曲しては試演会をやってその反応を見て直す、ということをや回もさせてくれました。そんな風にしてピアノ縮小版で書いた曲を、並行してオーケストレーションしていくのですが、連日12時間の作業をずっと続けたりします。オペラ作曲というのはそんなに集中し続けられるんですね。最後にみすゞが亡くなる場面では作曲しながら涙があふれてきて、そんな自分に驚きながら書き上げました。作曲していて興奮することはあっても、それまで器楽曲を書いても涙まで出ることはなかったです。オペラは自分に合っているな、と思いました。はじめ指揮者にいろいろ教えてもらっていたけれど作曲が進むにつれて台本の修正箇所をスコアで見せると指揮者は私の意図を理解します。自分の台本が膨らんで立体的に仕上がったと満足されたのか、最後には「あなたはもう私を超えています」とのお言葉を頂戴しました。それほどめり込んだ作曲です。自分の人生においてとても

は何か起きるかわからないのです。テクニカルな指導法よりも、あの時はああしてうまくいったというふうな経験から、学生それぞれの持つ可能性を活かすよう心掛けています。

—— 学生たちの成長を見届ける大学教育の醍醐味ですね。

音楽ソフトも使用しますが、コンピュータはツールであって音楽の本質ではないんですね。自分に合ったツールを用いて何を生み出すか。そして発信する力を育てることが重要です。私が沖縄民謡と出会ったのと同じように、彼女たちも心の琴線に触れるものを探してほしい。そして作品を楽譜に残し

大きな体験でした。
—— 今後の展望についてお聞かせください。

伊福部先生はこのように言われています。「ものを創る人間は大砲を打て」と。小曲も書くけれど、大作を書くこと。今は「みすゞ」を改作中ですが、あとふたつオペラを書きたい。不遜なようですが、オペラの書き方がわかったような気がしているのです。井上ひさしや宮沢賢治に興味を持っています。次は台本も自分で書きたいです。器楽曲も作曲しています。この数年はハープの作品が続きました。今はピアノソロ。以前書いた器楽曲が、各地で再演される機会も出てきています。昨年はチェロ曲など。オーケストラ曲はぜひ書きたい。その準備も始めています。

—— 音だけでなく、言葉に対する感性の豊かさはつぎ子さんからの影響でしょうか。

それはあるかもしれませんが。祖母

でも、演奏して音源を残してもいいし、ウェブにアップするのもいい。方法も自分で考える。そんな積極性をどうやって学生に身につけさせるかというところ、まず私自身が作曲することだと思っています。私が音楽に夢中になる、それがいちばんのメッセージになるはずと思っています。

思い返せば人生を決定づける出会いを、私も二十歳前後に多く与えられました。二十歳のころは模索の時期であり、また同時に吸収の時期でもあります。恩師松村楨三先生から、よく「伊福部先生はこう言われた」と教わりました。ほんものの教えは師の教えを次



ミュージック・クリエイション専攻の学生が書き上げた作曲楽譜。マンツーマン指導で学生個々が持つ可能性を伸ばしていく。

は金子みすゞ、巽聖歌や与田準一らと同世代の児童文学者でした。文学は、子どもの頃からたいへん好きでした。

もう一つ祖母から学んだのは生き方ですね。クリスチャンだったつぎ子は心から子どもたちを愛おしみ、幼稚園を経営しながら創作も続けて、初志を貫徹した人でした。親族にも映画関係者がいたり、私の父は技術系の人だったり、ものの作りの好きな人が集まっています。いわば幼稚園を手作りしたのです。私も大学院修了後に十数年間その運営に深く関わった経験から、本学で教員生活を送るようになって、キリスト教に基づく志ある校風には強いシンパシーを感じています。

●ほんものの教えは相述される

—— 学生への指導で心掛けていらっしゃることは？

ミュージック・クリエイション専攻は定員2名、マンツーマン指導で細か

代に伝えるという形で継承される。これを(祖述)といいますね。伝えた教えは、いくらかは相述者の思想でもあるのです。(付け加える)ということ。

実は教育も創作も同じ構造なのです。作曲で伝承素材を用いるのも、西洋音楽を学んで日本で作曲するのも、その意味では同じと言えます。

生の、ライブの教育現場である授業では、自分がほんとうに素晴らしいと感じる音楽について心から思っていることを話せば、響く学生が必ずいます。何かを探そうとしている学生と誠実に向き合う姿勢を、あの頃私が出会った先生方から教えられたのだと思います。

COLUMN

私はまだ、私を知らない。

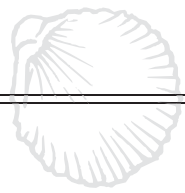
タグラインを音韻で考えると、母音はほとんど「a」と「i」でできています。あと「o」がひとつだけ。学院標語「愛神愛隣」もそうです。「a」と「i」のほか「n」がふたつ。この母音の偏在は偶然ではない気がします。「a」と「i」、すなわち「愛」を大切に。

■石黒 昌(いしぐろ・さやか)

東京藝術大学音楽学部卒業、同大学院修士課程修了。修了作品大学買い上げ。ガイド・ダレツォ国際作曲コンクール、奏楽堂日本歌曲作曲コンクール、朝日作曲賞などに入賞・入選。沖縄音楽を素材とした《三つの沖縄の歌》(宮古島の二つの歌謡)で創作活動を開始する。作品は国内外で演奏され、近年では《ハッシャバイ・ソングス》(音楽之友社)《わらべうたのカタログ》(カワイ出版)が、CD「である」とあわせて石黒晶女声合唱作品集《ジョヴァンニ・レコード》に収録。『歌おうNIPPON』プロジェクトのために《一日巡り》作曲。最近作はオペラ《みすゞ》(Hi's Opera Company委嘱、新国立劇場にて初演、DVDリリース)《愛のうた 恋のうた》(東京混声合唱団委嘱初演)など。NHK、全日本合唱連盟ほかの合唱コンクール審査員を務める。日本音楽著作権協会会員。



学生時代にしてきたこと
全てが役立っていると感じます



人と自然が バランスよく 共生していくために

化学物質が水生生物に与える影響を検証する

●株式会社日本海洋生物研究所 技術研究部 研究員

田井 梨絵 さん—— TAI Rie

私たちの社会は多様な生物の恵みを受けて成り立っている。しかし一方で、日々100種以上もの生物が絶滅の危機に瀕している——。生き物が好きで、幼い頃から人と自然との共生を考えてきた田井梨絵さんは、化学物質が生態系に及ぼす毒性影響を解明する「生態毒性試験」と、野生生物や生態系に対する悪影響を定量的に評価する「生態リスク評価」の手法を学生時代に習得し、念願の環境コンサルタントとして働いている。日本海洋生物研究所の研究員として、その職務や目指す先について話を聞いた。

■田井梨絵(たい・りえ)

2014年人間科学部 環境・バイオサイエンス学科卒業。16年横浜国立大学大学院 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 博士前期課程修了。16年に株式会社日本海洋生物研究所へ入社。研究員として、自然環境の中に放出された化学物質が生態系にどのような毒性影響を及ぼしているのか等の調査、研究をしている。



●人間と生物の共存とは？

「人間活動によって野生生物が絶滅したり、生息環境から追いやりられたりしない、バランスのとれた社会をつくりたい」。田井さんが野生生物の保護や環境問題に興味を持つきっかけとなったのは、1997年に日本海で発生したナホトカ号重油流出事件。当時はまだ5歳だったため、後にテレビで映像を目にしたと思われるが、重油にまみれたウミガメや海鳥の姿は脳裏から離れず、多くの生き物が死んだことに大きな衝撃を受けた。

●海の環境問題に取り組む

以来、田井さんは生物の保全に関わりたいという思いを持ち続け、環境・バイオサイエンス学科のある神戸女学院大学へ進学を決めた。どんな生物を対



▲学会で発表する田井さん

息する生物に与える影響を推定する研究も行っている。昨秋はその結果を学会に報告した。研究は今も続いている。その積み重ねがゆくゆくは日本近海の基準値設定に役立つかもしれない。

●フィールドワークで 見えてきたもの

入社して2年。新たな気付きもあった。「フィールドワークの機会が増え、今まで目にしてきたデータがどのような環境下で取られたのか解るようになってきました」。業務や研究で様々なデータを扱うとき、そのデータの背景にある実際の環境を知っていると、データを正しく扱うことができるようになり、解析に必要なデータかそうでないかの取捨選択もしやすくなる。「研究者として大きな一歩」と田井さんは微笑む。

今年度から淡水を担当するグループ業務も増えた。大変なのは体力面。多い時は、月の半分は調査に出て、その間は朝5時半に宿を出発、6時に出港する

象とし、どんな環境問題に取り組むのか？入学当初は定まっていなかったが、横田弘文先生の生態毒性学研究室に所属し、やりたいことが明確になった。

横田先生の専門は水生生物。メダカやミジンコで実験の方法を学んでいたある時、先生の人脈からウニの受精卵を扱わせてもらえることになった。海の環境問題は、まさに幼少期から気になっていたこと。研究テーマは「解熱鎮痛剤の有効成分がウニの受精に及ぼす影響」に決まった。解熱鎮痛剤は近年、特に問題視されている化学物質だ。「人間が飲んだ解熱鎮痛剤はいずれ排出され、排水処理場で処理されますが、処理しきれずに流出すると、微量でも環境中の生き物に影響を与えてしまいます。ウニの場合、卵の時期が一番影響を受けやすく、受精膜の形成が阻害されます。卒業研究では、有効成分の種類によって、ウニの受精卵に与える影響濃度が大きく異なることが解りました」。

●大学生活は人生の模索期間

学生時代、田井さんは進路を模索しながら地域創りリーダー養成プログラムで環境教育活動や、そこで知ったNPOのプログラムを通じて1年間の農業体験をするなど、積極的に活動の場を広げていった。4年生になる春休みは、ウニやホヤの生態を学びにお茶の水女子大学の公開講座に参加。千葉の館山にある臨海実習所へ1週間泊まり込み、朝から晩まで実験や解剖に没頭し

日々が続くことも。「学生の頃は実験室での研究がメインでした。実際に目で見て知ることの意義は大きく楽しいのですが、1日に4地点巡る日などは、2地点目でへろへろなことも(笑)」。基本的に男性社員が多く、同じように出来ないと同行者の負担を増やしてしまう。仕事の一環として、体力作りも日々意識しているという。

●調査から実験、解析まで トータルで出来る人材に

今後の抱負は？と聞くと、「生態毒性試験も生態リスク評価もお互いに影響し合う学問なので、その両方を行える人材になりたい。今はまだどちらも勉強段階ですが、自分で海や川へ出て調査をし、実験、解析も行い、全行程を把握した上で問題を発信している人になりたいんです。目を輝かせてそう語る田井さんの更なる飛躍が楽しみです」。

COLUMN

私はまだ、私を知らない。

生き物の保全だけを考えていても人間社会は成り立たず、人間社会の発展ばかり考えると自然環境がおろそかになりがち。自然環境や生態系と私たちの生活、どのようにバランスを取ればいいのか？今はまだ解らないけれど、生産者や漁業者の方々の考えも聞くなど、これから様々な人と話をする中で、見えてくるのではと思っています。

《KCC/KC インターンシップ》in USA 異文化に触れ、実社会で育んだ積極性

◎4週間にわたる海外就業体験からの学び

KCC / KC インターンシップは、シカゴのKCC-JEE の協力のもと、海外インターンシップがまだそれほど盛んではなかった2001年に始まり、現在は毎年夏期休暇中に実施されているプログラム。2001年春に最初のインターン生2名を派遣して以来、今年の夏までに84名が参加した。

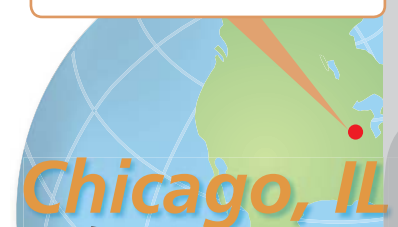
2016年にはシカゴのJapan America Society of Chicagoへ矢野さんが、ミネアポリス近郊プリモスのDaikin Applied Development Centerへ梁川さんが、ロックフォードのAnderson Japanese Gardensへ高岡さんが赴き、それぞれ充実した4週間を過ごしてきた。



【インターンシップ派遣先】

Japan America Society of Chicago
(イリノイ州シカゴ)

1930年創立の非営利団体・シカゴ日米協会にて、イベント運営のサポートや電話対応、メールの翻訳など、オフィスワークを経験。



No Photo

文学部英文学科4年生

矢野 さん

No Photo

No Photo

—— インターンシップに行くまでの間、どのように英語を学びましたか？

矢野 行くと決めてからの1年間、先生に相談しながら、応募に必要なTOEICの点数を目標に、テストを受け続けました。入学当初より160点UPしましたよ。

梁川 私は3月にオーストラリア留学を終え、その英語力を落とさないでいるには会話が大切だと思いました。それで、4月から学内のEnglish Zoneのスタッフになり、先生や留学生の人達と、主に日常会話の練習をしました。

高岡 英語の課題に真面目に取り組み、YouTube等の動画を見てリスニング力を鍛えたり、発音を直したりしました。

初はホストファミリーの会話に入れませんでしたが、オーストラリアとはアクセントが違います。でも、毎日会社での出来事を話すようにしていたら、だんだんスムーズに話せるようになりました。

高岡 アメリカ人は会話のスピードが速いので、みんなお喋りが大好き。かろうじて聞き取れても、返事をする前に次の話に移ってしまい、スピード感を掴むのに苦労しました。最初はどかしかったけれど、4週間後には自分でもびっくりするくらい喋れるように。英語力以前に意思やバイタリティーが大事でした。

矢野 私も文法をきちんと話さなくてはと思っていましたが、実際は伝えたい気持ちがあれば単語だけでも伝わりました。毎日成長を実感していましたよ。

—— 4週間のインターンシップ経験から、どのような変化を感じますか？

ら、どのようなことを学びましたか？

高岡 ひとつは、文化の違い。私はアメリカのアルバイトをしています。日本とアメリカとは店員とお客様の関係性が全く違う。アメリカは国籍も年齢も関係なく、対等。お客様が友達のように話しかけてくるし、身の上話もする。自分の価値観が普通ではない。普通って無いんだ！と思いました。

もう一つは、やりたいことは自分から言う姿勢。私はジャズピアノを弾くので、ガーデンで演奏したいと伝えて本当に演奏させて貰うことが出来ました。

矢野 長期の海外生活、ホームステイ、インターン、長時間の電車とバス通勤……私にとって全てが初めての経験でした。チャレンジすれば出来ることは無限にあり、やろうと思えば何でも出来た。チャレンジ精神の大切さを学びました。

梁川 インターンシップ先にはヨーロッパや東南アジアの方が大勢いて、エンジニアや経理など様々な職種のスベシヤリティがチームとなつて一つの仕事をしていました。ビジネス英語が飛び交う中、一瞬、劣等感を持ったけれど、直接的な貢献は出来なくても、コミュニケーションをとることは出来ると思いました。それで、挨拶や笑顔で話すことを心がけたら、社員の方からすごく褒められた。チームの一人として認められるまで頑張ることが大事だと学びました。

その後、自身の変化を感じますか？

【KCC (Kobe College Corporation) とは】
1920年、神戸女学院の維持管理と募金活動のためにアメリカ・シカゴに設立された非営利団体(NPO)。岡田山キャンパスのヴォーリス設計による学舎は、KCCがアメリカで70万ドルもの募金をし、その支援により建設された。1995年、阪神淡路大震災で神戸女学院が被災した際には、15万ドルを超える寄付金と共に温かいメッセージを届けるなど、物心両面で神戸女学院を支える。現在は、中高部英語教員や客員教員の人選と派遣、国際交流促進、大学からの留学生やホームステイ、インターンシップの受け入れ、一部の記念賞の授与などの支援を行っている。



No Photo

Plymouth, MN

【インターンシップ派遣先】

Daikin Applied Development Center
(ミネソタ州プリモス)

ダイキン工業グループの大型空調機器の研究開発施設にて、センターの見学をしながら、製品開発等の研修に参加。

文学部英文学科4年生
やなぐわ 梁川 さん

—— 今後、インターンシップに挑戦する後輩へアドバイス。

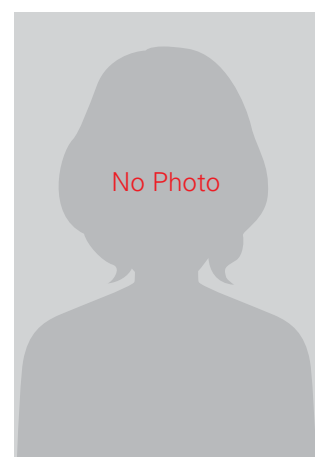
高岡 向こうでは自ら発言することがマナーであり、本人の意思を尊重する文化があります。教えて貰うのを待つのではなく、自分からやりたいこと、聞きたいことをしっかりと伝えてください。

梁川 英語力はできるだけ身につけておきましょう。日々の授業を大切に、ネイティブの先生に話しかけ質問をする。私は日本語が上手な先生にも必ず英語で話していました。また定期的にTOEICやTOEFLなどで自分のレベルを計ると目標設定がしやすいし、モチベーションも上がりますね。それと外国人客が多い職場で働くと、アルバイト中も英語に触れますよ。

【インターンシップ派遣先】

Anderson Japanese Gardens
(イリノイ州ロックフォード)

北米有数の日本庭園にて、庭園内の案内やイベント準備、ギフトショップでのレジ対応、レストランでのピアノ演奏などを体験。



No Photo

文学部英文学科4年生

高岡 さん

No Photo

No Photo

矢野 私は出発前、不安でしかなかった。でも、一年上の先輩に話を聞き、アドバイスを貰って「よし、頑張ろう！」と思えた。なので、ぜひ先輩のところに話を聞きに行つて欲しいですね。

—— 今後の抱負を聞かせてください。

梁川 今、韓国語の勉強をしているので、卒業までに話せるようになって韓国に行きたいです。

矢野 私も！元々履修しているフランス語に加え、帰国してから韓国語を取りました。世界中の人と関わるには様々な言語を話せた方がいいですからね。

高岡 神戸女学院大学に入ってから、学ぶことが楽しくて仕方ないです。私はヴォーリス建築が大好きなので、今更だに建築の授業(プロジェクト…)「神戸女学院を創る」Bクラス)を取り

ました。残り少ない学生生活、ジャズピアノのライブ活動など、やりたいことは全部やろうと思います。

梁川 あとは、人と意見が違うからこそ発言し、伝えることをチャレンジし続けたいです。常識は国によっても人によっても違う。決めつけてしまうと成長が止まると思うので。

矢野 私は春から空港のグランドスタッフとして働きます。自分が現地で不安だった時に、声をかけて貰って嬉しかったことを忘れず、今度は迎える側として頑張っていきたいです。

高岡 ニュースを見たり新聞を読んだりし、今、世界で何が起きているのかを意識するようになったので、これからもアンテナをしっかりと張って、得たことを自分の人生に繋げていきます。



■石井 毅 (いしい・つよし)
1983年生まれ。コピーライター。ICU国際基督教大学卒業後、広告制作会社での修行を経て2012年に独立。これまで三井物産、adidas、ミサワホーム、JINS、山本寛斎、Amazon、パンとエスプレッソと、野村不動産など多彩な分野で仕事をする。主な受賞歴に、日本雑誌広告賞、日経BP広告賞、日本産業広告賞など。今年10月には自由が丘にパンとコーヒーのお店「なんどかプレッソ」をオープン。

なものを、と。形容詞ではなく、動詞。旗を立ててそこから動き出していくようなイメージでしょうか。

●リベラルアーツには覚悟が必要

ポスターの反響はSNSで実感しました。「私の思っていたことがここに書いてありました」「男だから行けないけれど、オープンキャンパスに参加してみたい」など、細部まで読み込んだ共感のコメントが多く寄せられました。電車

広告コピーの「学問は、就活か。」は、世間が感じていることと神戸女学院だから言えることの交点。

内に掲示された数週間であまり多く反響があったというよりは、神戸女学院がやろうとしていることを応援してくれる方が大勢いるのだと思います。

神戸女学院を受験する学生は「覚悟」が必要です。リベラルアーツには、自由で何にでもなれる可能性がある反面、何にもない可能性もある。けれど、覚悟のある人にとっては、将来の可能性を大きく広げる選択肢になり得ると信じています。



私はまだ、私を知らない。

神戸女学院大学

●タグラインに込めた想い

「まだ知らない自分に挑む！」

●コピーライター

石井 毅 さん——ISHII Tsuyoshi

※タグラインとは：その組織やブランドがどのような価値を提供できるかをわかりやすく伝えるための表現。具体的な事例としては、「The Power of Dreams (本田技研工業)」「あしたのもと AJINOMOTO (味の素)」など。

私はまだ、私を知らない。

●タグラインに込めた想い

今、壁を作ってしまったらず、まだ知らない自分の可能性を広げて欲しい。タグラインには、そんな思いを込めました。高校生の時点で自分の可能性やポテンシャルを想像するのは難しいことです。自分の枠を決めて進路を定めるより、いろんなことをやってみよう！という方が、将来の可能性も広がる。書いた時に確信があったので、採用していただけたときは、よくぞ！と思いましたね。

●神戸女学院大学らしさとは何なのか

この依頼を受けた時「神戸女学院大学とは○○である」と、ひと言にまとめるのは難しいと思いました。理系、文系、音楽：と幅広い学問分野があるのに、一括りにしてはイメージを狭めてしまう。様々な角度から話を聞き、実学に必要な論理的思考はもちろん、感覚的な要素も感じられる人材を育てるリベラルアーツ教育こそが、神戸女学院大学らしさであると感じました。実は、僕もリベラルアーツ教育に力を入れる大学の出身。だからこそ、その中で養われた感覚を生かしたい。目にした時に心を揺さぶられるような美しいタグラインをめざしました。神戸女学院大学のよさを世間に伝えるという役割はもちろ、在学生在が誇らしく思えるような、卒業生が自分の子どもに「これ、私の母校だよ」と自慢したくなるよう

●タグライン制定の経緯

本学は、自校の強みや魅力といったブランド価値を広く社会に発信することを目的に、ブランディングのための取り組みを昨年度にスタートさせました。学長等の大学執行部がメンバーの「大学企画評価会議」で企画や検討を行い(学長室広報担当が事務局を担当)、外部の専門家をパートナーに迎えてプロジェクトを進めました。まずは、本学のブランド価値を探るために各種調査を実施しました。具体的には、在学生へのインタビュー調査、教職員へのアンケート調査、そして競合大学のベンチマーク調査を行い、その結果を基に本学が提供する価値を抽出・分類しました。

ここで抽出した価値をメッセージに落とし込み、それが本学のブランド価値を表現するタグライン「私はまだ、私を知らない。」として本年3月に制定されました。

このタグラインを使用した広報活動は6月から開始しています。具体的には、学外向けに交通広告(電車内広告の掲出と大学ホームページへの掲載)トップページにイメージ画像を掲載、校内向け(学生と教職員)にはタグラインとその考え方について書かれたリーフレットを配付しています。

6月の交通広告にはTwitter等のSNSを中心に様々な反響があり、在学生や卒業生といった本学の関係者だけではなく、広く一般の方々からの感想も多く見られました。

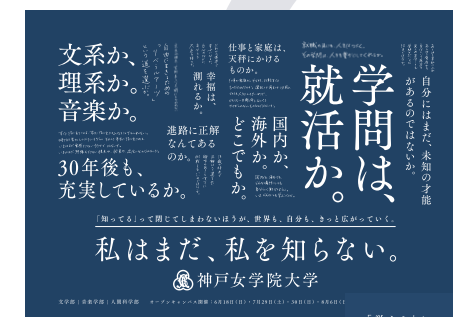
今月からは、前回より範囲を拡大して交通広告を掲出しています。来年度もタグラインを使った広報活動は継続して行い、より多くの方に本学や本学のブランド価値を認識していただけるよう、検討を行っていきます。



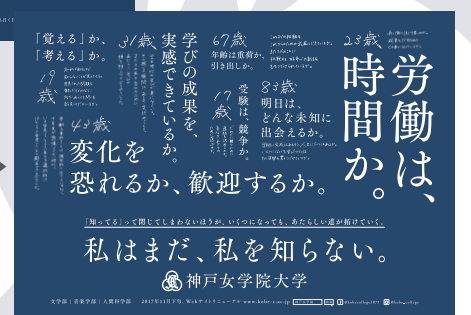
▲校内向けに発行したリーフレット

—— タグライン制定の要因と背景 ——

▶2018年以降に18歳人口が急減することが人口推移から予測されており(いわゆる「2018年問題」)、本学では2018年以降も安定的に入学者を確保するための学内改革を行うべく、2014年3月に教職員をメンバーとする「2018年問題検討ワーキンググループ(以下、WG)」が発足しました。WGでは主にカリキュラム改革について検討を行い、その成果が今年春にスタートした新カリキュラムに結実しましたが、検討の過程で本学の広報についても取り上げられ、これまで社会に対して、本学が持つ価値を明確に伝えきれていないのではないかという意見が上がりました。それを打開するために、ブランディングを実施すべきという提案がなされ、今回のプロジェクトのスタートに結びついたので。



◀6月に掲出した交通広告



▶11月に掲出した交通広告

◎西宮市立北口図書館で「英語絵本の読み聞かせ」活動

子どもたちが英語に触れるきっかけ作り

英文学科のカーニー・ナサニエル准教授は、2014年から2カ月に一度、西宮市立北口図書館で地域の子どもたちを対象に「Story Time えいごのおはなし会」を開催。英語の絵本を読み聞かせることによって、気軽に英語に触れてもらうための活動だ。カーニー先生と参加した3人の学生に話を聞いた。

●文学部英文学科

カーニー・ナサニエル 准教授

●文学部英文学科2年生

藤原 さん
三尾 さん
吉田 さん



■英語の絵本と歌で楽しいひととき
カーニー先生が「Story Time えいごのおはなし会」を始めたのは2014年。「同図書館で日本語の絵本の読み聞かせが行われていて、当時5歳と6歳だった私の子どもを連れて行っていました。楽しそうな様子を見て、小さな子ども向けに英語の絵本の読み聞かせをすれば喜ばれるのではないかと考えたのです。」
開催は2カ月に一度で、あいさつから終了まで基本的に英語を使用。会の流れを説明した後は、日本語でもよく知られる英語の童謡を歌い、絵本を4〜5冊読む。2歳から5、6歳を中心に、毎回10人から20人の子どもとその保護者が参加。始めた当初は何歳くらいの子どもが集まるかわからなかったため、どんな絵本を選ぶかに苦心した

が、すぐに人気の催しとなり、毎回参加する子どももいるという。

■抑揚の付け方が盛り上がるポイント

これまでにボランティアとして参加した学生は延べ14名。カーニー先生が担当する英語の発音の授業で呼びかけに応じた学生たちだ。

開催日の一週間ほど前から各自が絵本を持ち帰り、カーニー先生が録音した音声参考に練習を行う。「普段、英文を読むときはまったく違う抑揚の付け方に戸惑いもありましたが、興味を持ってもらうために大切なポイントなので、同じセリフでも場面によって言い方を変えるなど試行錯誤しています」（三尾さん）。当日は、内容が伝わっていないなと感じたら、「これ、何かわかる？」と質問を投げかけながら進めていく。

「大学で英語を話すときは、つたない英語でも先生がくみ取ってくださるという安心感があります。でも、この活動は相手が子どもなので、細かい部分まで伝え方を工夫しなくてはいけないことを痛感しました」（吉田さん）。

■英語や異文化に触れる入口に

好奇心おう盛な子どもたちの反応は正直だ。「わあーっ」と声を出して喜び、動物や色の名称など覚えての英単語を口にしたり、手を使ってリズムを取りながら歌を歌ったり。耳で聞いて理解する大人とは違い、全身で楽しさを表現する。「コミュニケーションというのは、同じ空間にいて、直接目を見て相手に伝えるということ。子どもたちが笑ったり、喜んでくれることがうれしい」（藤原さん）。たとえ英語がわからなくとも子どもたちは体で感じってくれると話す。

「近所のスーパーで参加者の子にばったり出会うと、喜んであいさつしてくれます。子どもの頃から英語や外国人に触れる、その入口となるような活動にしたい。学生たちも、ダイレクトな子どもたちの反応を見て、英語でコミュニケーションするとき大切なことを考えるきっかけになってくれればと思います」とカーニー先生。これからは、ぬいぐるみを使ってセサミストリートのような会話を取り入れることも検討中。一度でも参加すれば得られるものが多いこの活動、さらに多くの学生有志の参加を待ち望んでいる。

◎英語の教職課程履修生がボランティア

小学校の出前授業で活躍

小学校で英語活動が始まったことに伴い、英文学科の教職課程4年生の学生たちが出前授業のボランティアに取り組んでいる。西宮市立山口小学校、同市立西宮浜小学校の1年生から4年生を対象に、さまざまなアクティビティを交えたユニークな授業を展開。その狙い、工夫や苦労している点、やりがいなどを聞いた。



●文学部英文学科
白井 由美子 准教授

教育実習を終えた5名の学生が交替で二人一組となり、西宮市立山口小学校、西宮浜小学校において英語活動の出前授業を行っています。活動のきっかけは、前任の原田園子名誉教授が2009年度に西宮浜小学校から英語活動の支援を依頼されたことです。山口小学校でも2010年度からスタート。小学5年での教科化に備え、子どもたちが早く英語に慣れるよう努めています。

各学年に年3回ずつの提供で、指導案や教材を作成するのは学生たち。英語が身近に感じてもらえるような授業を心掛けています。低学年では数字、食べ物や動物の名前など日常的な単語を教え、4年生では、自分の好きな物、得意なことを伝える表現や質問の仕方を指導。毎回習った内容をふまえてのゲーム、歌などを取り入れるようにしています。毎年12月には本学の留学生も一緒に訪問して国際交流の活動を行っています。

評価されている証といえます。5・6年生の外国語助手の先生や、遠足や修学旅行先で出会う外国人旅行者に、子どもたちがものおじせずに話しかけていると小学校の先生方から伺っています。これは英語活動の成果といえるでしょう。また、保護者の方々にも喜ばれているようです。子どもたちが「今日の英語は楽しかったよ」と各家庭で話せるような授業をすることにより、間接的に学校と家庭・地域をつないでいると考えています。

中学校・高等学校の英語教員になった卒業生たちも、「在学中の英語活動が私の原点」と話しています。これから学校や地域の期待に応えられるように活動を発展させていきます。



STUDENT'S VOICE

●出前授業ボランティアに参加して

●文学部英文学科4年生

尾ノ井 さん

小学校での英語活動によって私が目指しているのは、中学に入ったときに英語への抵抗を少なくしたいということです。Hello や How are you? など少しでも知っている単語や表現があれば、授業は楽しくなり、入口部分でのつまづきをなくせると考えるからです。

実際に活動してみて知ったのは、小学生は声の抑揚やリズムに敏感ということ。数を数えるときも、ゆっくり数えたり、勢いよく数えたりするだけで興味を持ち、笑顔で同じように返してくれます。今は先輩たちのやり方を参考にすることが多いのですが、今後は授業がワンパターンにならないように注意し、オリジナルのアイデアを出していきたいです。

●文学部英文学科4年生

中丁 さん

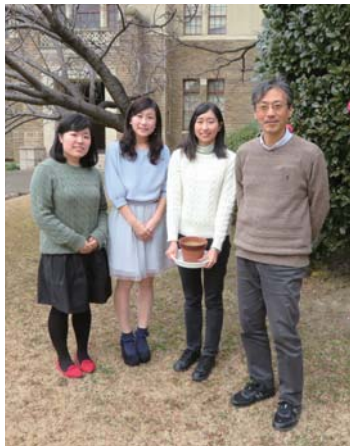
中高生のころ、英語の授業は先生の話す時間が多かったこともあり、物足りなさを感じていました。そのため私は今、全員参加型の授業を目標にしています。英語活動では、みんながABCの歌を歌ったり、ハロウィンの時期ならハロウィンからめたテーマを選んだり、体感を重視。アクティビティ以外に学んだことを確認する時間も必要なので、そこも工夫して楽しく勉強できるようにしたいです。

ただ、初対面の子どもばかりで、一人ひとりの特徴がわからないため、おとなしい子どもに気付きにくい場合もあります。そういう子どもにどういう声かけをするのかは、教師を志すにあたってとても大切な点。全員への目配りを心掛けています。

Campus News

〈環境・バイオサイエンス学科〉遠藤知二教授・ゼミ生

学内・中庭で絶滅危惧種「ワスレナグモ」を発見



▲絶滅危惧種「ワスレナグモ」

▲ワスレナグモを発見した学生と卒業研究として取り組む学生(2名)、遠藤教授

環境・バイオサイエンス学科の実習科目を受講した学生が、実習の課題として行った学内の生態調査において「ワスレナグモ」という絶滅危惧種のクモを発見した。

このクモは、環境省レッドリストでは準絶滅危惧種(NT)、兵庫県版レッドデータブック2003ではBランクに指定されている。「ワスレナグモ」は中庭にあった直径1センチほどの巣穴を掘り進んだところで発見され、近くでもいくつかの巣穴が発見された。その後、クモの研究は同学科の遠藤知二教授のゼミ生が卒業研究として取り組むことになり、現在中庭の中でのクモの詳細な分布を調べている。

今回の発見は、本学のキャンパスに貴重な自然が残されていることを示すものであり、中庭のような庭園的環境の中で長年にわたって稀少な個体群が維持されてきたのは、大きな環境改変を行わずに庭園管理をしてきたことが要因になっているものと思われる。

なお、「ワスレナグモ」の発見は、読売新聞・毎日新聞・神戸新聞の三紙で記事として取り上げられた。

日本精神保健福祉学会 第6回学術研修集会

金田知子教授が実行委員長を務める



9月17日(日)に神戸学院大で開催された日本精神保健福祉学会第6回学術研修集会の大会実行委員長を、金田知子総合文化学科教授が務めた。同大会のテーマは「息をひそめずに精神障害者が暮らすために―兵庫から発信する多元価値的な社会の創造―」であり、そこには多様な文化や人びとを積極的に受け入れ、社会変革の一翼を担い続けてきた港町神戸とそれを擁する兵庫から、精神障害者が生き生きと暮らすことができる社会の創造に資する提言を発信したい、という実行委員会の思いが込められた。

大会当日は、台風18号が兵庫県を直撃するという悪天候に見舞われた。安全のために学生アルバイトを帰宅させ、その後は実行委員が細かいところまで大会を運営。「人手がなく、見るに見かねた発表者が、質問者にマイクを渡す係までしてくださいました。台風直撃という悪天候に見舞われながらも、改めて協働の大切さを実感することができた、大変思い出に残る大会でした。」と金田教授は振り返った。

第8回朝日21関西スクエア賞

河西秀哉准教授が受賞



河西秀哉 准教授

関西を拠点に時代を切り開く新進気鋭の方たちを顕彰する朝日新聞社主催「第8回朝日21関西スクエア賞」に、総合文化学科の河西秀哉准教授が選ばれた。河西准教授は象徴天皇制を研究しており、天皇退位の報道後にはテレビ朝日「報道ステーション」等のテレビ番組への出演や、新聞でのインタビュー記事の掲載等、活躍の場が増えている。

9月30日(土)には河西准教授による受賞記念講演会が行われ、奈良時代の女帝孝謙・称徳天皇を小説に描いた本学卒業生で作家の玉岡かおる氏の特別講演も行われた。

「これまで少しずつ象徴天皇制に関する歴史的な研究を続けてきましたが、2016年の『天皇退位』をめぐる問題を契機に、メディアなどで発言する機会を与えていただくことが多くなりました。『これから関西を元気にし、引っ張っていく力を秘めた若手を応援する』という賞の目的に恥じないように、これからも頑張っていきたいと思います。」と河西准教授は今後の抱負を語った。



▲象徴天皇制について書かれた河西准教授の著書

◎世界に羽ばたく卒業生 <チェンバロ奏者>

行動力と発信力を持ち、楽器の魅力を伝える奏者に

●チェンバロ奏者 濱田 あや さん

現代屈指のチェンバロ奏者として、ニューヨークを拠点に世界各地で演奏活動を展開する卒業生の濱田あやさん。今春は、国際的なチェンバロの祭典「Harpsichord Heaven」に出演し、日本人で初めて「世界の9人のチェンバロ奏者」に選出された。「優れた演奏は言うまでもなく、それだけでは通用しないのが世界の舞台」という濱田さんに、神戸学院大学での学びや経験がどのように役立っているのか、話を聞いた。

■濱田あや(はまだ・あや) 神戸学院大学中学位、高等学部、同大学音楽学科を卒業後、ジュリアード音楽院古楽演奏科修士課程を最優秀の成績で修了。プロミュージカ室内管弦楽団首席チェンバロ奏者、レザール・フロリサン伴奏要員、古楽アンサンブル「クイーンズ・コンサート」のメンバー。日本、北中南米、欧州各地でリサイタルを開催。ロンドン音楽祭コンクール第1位、ジョセフ・ホフマン・ピアノコンクール第2位など受賞歴多数。ニューヨーク・マンハッタン在住。



●チェンバロとの出会い
16〜18世紀に広く西洋で用いられた鍵盤楽器チェンバロ。打鍵すると鳥の羽軸などで作られた爪が弦をはじき、美しい音を奏でる。濱田さんがこの楽器に魅了されたのは、家族旅行でチェコを訪れた大学1年生のこと。プラハのモーツァルト博物館で、実際にモーツァルトが過ごした部屋に立ち、彼が弾いていたチェンバロに触れた。「18世紀にタイムスリップしたような衝撃を受けました。目の前に新しい世界が広がったのです」。

濱田さんの専攻はピアノだったが、帰国後すぐに副専攻でチェンバロを履修することを決意。「副専攻にチェンバロの選択肢がなかったら、スタートを切ることすら出来なかった。神戸学院大学のシステムが私の可能性を広げてくれました」。以来、チェンバロは自身を表現してくれる相棒に。レッスンで辛かった記憶はないという。

●続けることが奏者としての貢献
国によっては馴染みの薄い楽器とされるチェンバロ。濱田さんは奏者として、その音色の奥深さや多彩なレパートリーなど、楽器のもつ魅力を一人でも多くの人に伝えたいと考えている。「今はYouTube等があり、何処でも聴いていただける。私が演奏活動をしていることでその機会を増やすと共に、若手の育成もサポートしていきたいです」。



●大切なのは、進んで行動する力
現在、濱田さんは日本、北中南米、欧州…と、世界を舞台に演奏活動を行っている。訪れる国に合わせて英語、フランス語、イタリア語、日本語の4カ国語を使い分け、演奏会のプログラムの企画や資料作成、広報も自ら率先して手がけ、Web等で発信する。2015年にリリースされたデビューCD「デュフリ・クラヴサン曲集」も、スタッフの人選やパリでの録音会場の選定、スケジューリングまで自身で行った。「今は様々なことが求められる時代。誰かがやってくれるのを待っていたら、いつまでたっても進めません。今、こうして自分の活動に責任を持って取り組めるのは、神戸学院大学で、音楽だけに偏らず、外国語や文学、美術など、多様な領域を学修し、見聞を広げていただいたおかげ。当時、音楽に直接関係がないのでは?と思っていた内容も、振り返ってみると全てに意味があったと感じます」。



講演会・公開講座・コンサートなど

音楽学部講演会・公演

- 定期演奏会
日 時：11月21日(火) 18:30開演
会場：兵庫県立芸術文化センター KOBELKO大ホール
入場料：1,000円
- 第9回舞踊専攻卒業公演
日 時：12月14日(木) 18:30開演
12月15日(金) 18:30開演
12月16日(土) 13:00、18:00開演
会 場：神戸女学院大学
エミリー・ブラウン記念館・地下2階スタジオA
入場料：1,000円
- オペラ実習発表会
日 時：2018年2月15日(木) 開演時間未定
会 場：神戸女学院講堂
入場料：無料
- 卒業演奏会
日 時：2018年2月26日(月)～27日(火)
会 場：神戸女学院講堂
入場料：無料
- 舞踊専攻第12回公演
日 時：2018年3月8日(木) 19:00開演(予定)
2018年3月9日(金) 18:00開演(予定)
会 場：神戸文化ホール 中ホール
入場料：2,000円
- 新人演奏会
日 時：2018年4月18日(水)
会 場：豊中市立文化芸術センター 大ホール
入場料：1,000円
- 修了披露演奏会
日 時：2018年4月26日(木)
会 場：兵庫県立芸術文化センター
神戸女学院小ホール
入場料：1,000円
問い合わせ：音楽学部事務室
TEL 0798-52-8550 FAX 0798-51-8551
E-mail: music@mail.kobe-c.ac.jp

アウトリーチ・センターイベント

- 子どものためのクリスマス・コンサート ～わたしのステキなプレゼント～
日 時：12月9日(土)
第1部：11:00～12:00(10:30開場) 年齢制限なし
第2部：15:30～16:30(15:00開場) 小学生以上対象
場 所：神戸女学院講堂
出 演：荒木 この美(声楽)
市川 真衣・金丸 史奈・鹿島 久美子・中 まゆり(ピアノ)
岩本 紗綾(ハープ)・前田 紗希(パーカッション)
参加費用：大人500円、子ども(19歳以下)300円 申し込み要
問い合わせ：音楽学部アウトリーチ・センター
TEL 0798-51-8584 FAX 0798-51-8551
E-mail: concertfch@mail.kobe-c.ac.jp

金曜日公開プログラム

- クリスマスオルガンコンサート
日 時：12月8日(金)
場 所：神戸女学院講堂
出 演：西山 聡子(学院オルガニスト)・追中 宏美(オルガニスト)
入場無料・申し込み不要
- キャロルを歌おう♪
日 時：12月15日(金)
場 所：神戸女学院講堂
指 導：斎藤 言子(学長・音楽学部教授)
- 新年礼拝
日 時：2018年1月12日(金)
場 所：神戸女学院ソールチャペル
説 教：飯 謙(チャプレン)
入場無料・申し込み不要
問い合わせ：チャプレン室 TEL 0798-51-8502

- 神戸女学院大学英語英文学会(KCSES)
特別講演：越智 正男 先生(大阪大学)
日 時：11月24日(金)
場 所：神戸女学院大学 文学館 L-28教室
参加費：500円(在学生は不要) 申し込み不要
問い合わせ：文学部事務室 英文学科
E-mail: e-office@mail.kobe-c.ac.jp

高校生等参加イベント

- オープンキャンパス
日 時：12月10日(日)、2018年3月21日(水・祝) 10:00～15:00
内 容：模擬講義、キャンパスツアー、各種相談コーナー他
問い合わせ：入学センター TEL 0798-51-8543
- 冬期講習会(音楽)
日 時：12月10日(日)
場 所：神戸女学院大学音楽館
参加費無料・申し込み要

めぐみ会主催行事

めぐみ公開講座

- 2017キリスト教セミナー
「古代ユダヤの社会と知恵の伝統(全3回)」
第1回 2018年2月6日(火) 10:30～12:00
「箴言」に見る知恵
第2回 2018年2月20日(火) 10:30～12:00
「箴言」の書の神学
第3回 2018年3月6日(火) 10:30～12:00
「箴言」の女性観
講 師：神戸女学院大学文学部総合文化学科教授・チャプレン 飯 謙 氏
会 場：神戸女学院めぐみ会館
受講料：各回1,000円(学生は無料) ※要予約(HP可)
問い合わせ・申し込み：公益社団法人神戸女学院めぐみ会
TEL 0798-51-3545 URL: http://www.megumikai.or.jp/

2017年
11月下旬

Webサイトリニューアルオープン!

神戸女学院大学-KOBE COLLEGE
http://www.kobe-c.ac.jp/



Follow us!!

神戸女学院大学では、SNSによる情報発信をしています。学長室(広報担当)が管理と運用を行っている公式アカウントです。Facebookでは、本学のニュースやイベント情報、本学院・学生・教員のマスコミ出演情報など、本学の魅力と最新情報を発信しています。



Instagram
@kobe_college



facebook
@kobecollege1875



「Vistas」アンケートのお願い

神戸女学院大学広報誌「Vistas」をご愛読いただきありがとうございました。P.17～18にアンケートハガキがございますので、皆様からのご意見・ご要望をお寄せください。

—※行事について特に記述のないものは、基本的に申し込み不要・無料です。—